

「少しでも阿弥陀さまの真似事を」

奈良・浄教寺 東日本大震災テーマに講演会

奈良市の浄教寺（島田春樹住職）は2月1日、講演会「被災地の今・浄土真宗との出会い」を開いた。

東日本大震災を風化



奈良市の浄教寺（島田春樹住職）は2月1日、講演会「被災地の今・浄土真宗との出会い」を開いた。本願寺派総合研究所研究員（当時）として震災直後から被災者の支援活動に取り組み、現在も被災者の苦しみ、悩みに耳を傾ける訪問活動を行っている龍谷大学大学院実践真宗学研究科実習助手の金澤豊さん（同寺衆徒）と、震災で夫と義父母を亡くし、宮城県気仙沼市で「すがとよ酒店」を営む菅原文子さんが思いを語った。

金澤さんは被災規模などの概要を説明し、「場所によって被災状況はさまざまで、復興状況もさまざま。抱えている問題もそれぞれ異なっていることを知ってほしい。見えないところで涙をぬぐっている人もまだまだ多く、震災以前の生活水準まで戻った人の方が少ないと感じている。これからの支援の手は必要」と話した（写真）。

また、現在も岩手県陸前高田市の災害復興公営住宅を中心に、行政などと連携しながら先行きが見えない不安を抱える住民への声かけを行っている金澤さんは「疑う心なく、相手の言葉の背景や気持ちをおのまま受け取ることが『聞く』ことなのでは。それはすでに私たちが阿弥陀さまに

抱えていたたいしていること。阿弥陀さまにそのまま受け取っていただいている私たちが、少しでも阿弥陀さまの真似事をしてみようと思わせていただいている。皆さんも被災地を身近に感じつつ、念仏者の生き方を歩んでほしい」と締めくくった。

震災を機に浄土真宗とのご縁が生まれ、中央仏教学院の通信教育課程を修了した菅原さんは、店の再建までの思いを語り、「震災によって悲しみやむなし

んのご縁がつながり、生かされたいのち、人生を生きまことを大切にしたい」と話した。